

令和元年6月15日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26284026

研究課題名(和文) 中央アジア仏教美術の研究 釈迦・弥勒・阿弥陀信仰の美術の生成を中心に

研究課題名(英文) Studies on the Buddhist Art of Central Asia-Focusing on the Art of the Faith of Sakya, Maitreya and Amitabha

研究代表者

宮治 昭 (Miyaji, Akira)

龍谷大学・世界仏教文化研究センター・研究フェロー

研究者番号：70022374

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,000,000円

研究成果の概要(和文)：ドイツ隊、ロシア隊、イギリス隊、日本の大谷探検隊による多数の中央アジア将来品を世界各地の所蔵館にて調査し、既刊の資料を統合してデータ化して整理分析を行い、中央アジア仏教美術に関する基礎資料を作成した。これらの資料をもとに、仏教学、仏教文献学研究と連携した美術史研究を行った。具体的には、インド・ガンダーラと東アジアの交流の視点から、中央アジアにおける(1)釈迦信仰、(2)弥勒信仰、(3)阿弥陀信仰の美術に着目し、その生成と変容の様相を様々な角度から明らかにした。本研究の研究成果は最終報告書(2018年4月)として刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、中央アジア仏教美術に関する基本的な資料集成に基づき、中央アジア仏教美術の実態を解明しうる中核となる3つのテーマ(1)釈迦、(2)弥勒、(3)阿弥陀信仰の美術の生成と変容を中心として、中央アジアを地方様式のひとつ、単に文化の交差点とみるのではなく、新たな造形や信仰を創出する場と捉え、複合的な視点から諸相を明らかにした。本研究はインドから中国への仏教美術の伝播、変容、展開の様相を具体的に浮き彫りにしたのみならず、仏教美術研究と仏教学の連携によって、未だ不明瞭な部分の多い大乘仏教とそれに関わる美術の成立と発展の様相についても新たな視点を提供している。

研究成果の概要(英文)：We investigated a lot of collections that German, Russian, British, Otani Expedition brought back from Central Asia, now scattered among Museums throughout the world. On the basis of these materials, we integrated and arranged materials appeared in already published, created basic data on Buddhist Art of Central Asia. Based on these data, we have examined and made clear some unique aspects of the generation and transfiguration of Buddhist Art of Central Asia focusing on the Art of the Faith of Sakya, Maitreya and Amitabha. Our research on Buddhist Art of Central Asia carried out closely linked to related Buddhist studies, having the perspective that the cultural exchange between South Asia, and East Asia. The results of our research project were published in the Final report (April, 2018).

研究分野：人文学

キーワード：仏教美術史 仏教図像学 中央アジア美術 釈迦信仰 仏伝美術 弥勒信仰 弥勒上生・下生信仰 阿弥陀信仰

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究の対象地域となる中央アジアは、現在のパキスタン・アフガニスタン・旧ソ連の中央アジア(西トルキスタン)、中国新疆ウイグル自治区(東トルキスタン)を含み、敦煌などを視野に入れる。これらの地域では、かつてそれぞれのオアシス国家のもとで栄え、しかもインド・地中海世界・西アジア・中国との交流によって極めて多彩な美術を生み出したために、仏教美術の歴史の変遷や全体像を把握するのが難しい。そのため、中央アジアの仏教美術は、19世紀以降活発になる探検調査、および近年の考古学調査によって、シルクロードのオアシスに咲いた美術として個々に紹介、研究されてきた。一方、経典成立史や訳経史、経典解釈史の研究分野では近年多くの発見が相次ぎ、活発な議論と研究が進んでおり、仏教美術史研究と連動させることによって、さらに敦煌などの中国甘粛省や四川省の仏教美術との比較によって総合的に検討することで、中央アジア仏教美術の生成と展開の実態をより具体的に明らかにすることができると考えた。中央アジア仏教を俯瞰した、このような系統立った研究は国内外でもほとんどなされていなかった。さらに、本申請課題に先立って、研究代表者は、平成20-24年度科研「ガンダーラ美術の資料集成とその統合的研究」において、美術史学、考古学、仏教学、仏教史学など幅広い研究者を交えて、横断的な学問領域のなかでガンダーラ美術の実態を問い直すことを試みた。そのなかで、広義のガンダーラであるパキスタン北部・アフガニスタン東部を含む地域の多様な仏教信仰の実態が明るみにされ、仏教美術と経典の生成・伝承とが並行して展開していることが部分的ではあるが明らかになり、ガンダーラと中央アジアとの関連性は殊に看過し難いことが判明した。よって、本研究では、インド、ガンダーラから中央アジアを経て東アジアにいたる仏教美術の変遷を、美術史、仏教文献学、仏教史学の研究者が集い、同じテーマを共有し、複眼的に検証することを目指した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、インドで興った仏教が中国に伝播し、発展を遂げる際に、中央アジアが大きな役割を果たしたことを重視し、南アジアと東アジアの媒介、交流の視点をもって中央アジア仏教美術の生成の様相と実態を検証することにある。すなわち、中央アジアを仏教の通過点ではなく、インドから伝来した仏教が様々に変容し、大乘仏教とそれに関わる美術の成立と発展の問題とも密接に関わる地として捉え、インドから伝来した仏教が様々に変容し、大乘仏教とそれに関わる美術の成立と発展の問題とも密接に関わる地として捉え、具体的には、中央アジア仏教美術の実態を把握する上で中核となる(1)釈迦信仰の美術、(2)弥勒信仰の美術、(3)阿弥陀信仰の美術という三つのテーマを設定し、各テーマに関わる作例を網羅的に収集しながら、図像を軸にして考察を加え、その展開の様相を明らかにする。その際、経典成立史や訳経史・経典解釈史、僧の行歴にも注目し、仏教美術史研究と連動させる。

3. 研究の方法

本研究は、次の3つの方向性から同時並行的に進めた。

・本研究に関する画像等の収集とデータ整理

特に本研究に関連する作例を公刊資料や各研究者が所有する過去の調査資料(スライド、デジタル画像、書籍等)から抽出し、先の研究目的に述べたテーマ別、また地域別・時代別に分類し、データ整理を行い基礎資料の集成を行った。

・実見調査の実施

現地専門家や海外の研究者とも連携しつつ、現地調査の他、中央アジア出土資料を保管する美術館・博物館にて実見調査を行い、作例を把握する。

・研究会実施：問題の所在の明確化と調査報告・研究の進捗状況・新知見共有

美術史学を中心に、仏教文献学の視座と見解を共有・反映しつつ横断的検証を行う研究会を開催する。(1)釈迦信仰の美術、(2)弥勒信仰の美術、(3)阿弥陀信仰の美術について系統的分析を進め、また得られた各知見の統合的研究によって相互の関連性・非関連性を把握することで、中央アジア特有の重層的な文化構造のなかに展開する多様な仏教美術の特性を明確にし、その実態を明らかにする。

4. 研究成果

(1)上記 I. 本研究に関する画像等の収集とデータ整理、II. 実見調査の実施

四力年にわたり、中央アジア美術を所蔵する博物館、美術館および遺跡の実見を行った。すなわち、博物館では、ベルリン国立アジア美術館、エルミタージュ・アムステルダム美術館、アムステルダム国立美術館、ライデン国立民族学博物館、ライデン国立古代博物館、ニューデリー国立博物館、ソウル国立博物館、遺跡では、敦煌石窟の調査を行った。以上から、ドイツ隊、ロシア隊、イギリス隊、日本の大谷探検隊による多数の中央アジア将来品を把握することができたほか、ガンダーラ将来品なども新たに実見することができ、さらに敦煌との関連性も新たに考察することができた。これらの調査で得たデータは大学院生を中心に整理作業を行った。また、研究代表者、分担者が様々な媒体で保管している画像資料をデータ化し統合を行った。集成により、中央アジア出土仏教美術の作例の全体像を大枠把握することが可能となった。一方、完全な形でのデータベースの構築にはさらに用語を統一するなど入力作業が必要である。

(2)中央アジアにおける(1)釈迦信仰、(2)弥勒信仰、(3)阿弥陀信仰の美術の総合的研究

上記の3つのテーマについて、研究分担者、協力者が各自の研究をすすめて、地域的、横断的に、あるいは包括的に小テーマを定めた研究会を開催した。研究会は全て公開とし、のべ18回、海外の研究者を含むゲストスピーカーを含めて総勢30名の研究者による発表と、参加者全体による議論を行った。研究会を通じて各テーマの横断的検証を行い、多くの新知見を得ることができた。最終年度には本研究の成果として研究代表者・分担者による論考とともに、研究会の概要を全て掲載し、最終報告書として刊行した。

釈迦信仰の美術については、本生図・仏伝図、誓願図、瑞像、法華経美術、華嚴経美術を中心に、インドには見出し得ない新たな聖遺物・聖地信仰や、多様化する誓願授記主題、大乘仏教における釈迦を基にした仏身観の展開など、新たな釈迦イメージの構築の様態を指摘した。

弥勒信仰については、弥勒菩薩像・倚坐像、兜率天の弥勒菩薩、弥勒大仏を中心に、インドにおける時間軸上の弥勒の位置づけから、釈迦涅槃の現実性が希求させた兜率天への上生信仰、さらに弥勒の下生信仰と大仏造立への動き、中央アジアの民が抱く多様な死後世界のイメージと昇天思想が与えた影響も考慮しながら、地域的相違を浮き彫りにすることができた。

釈迦信仰、弥勒信仰の研究の進展に比べると、阿弥陀信仰の美術に関する研究は若干希薄となったが、インド・ガンダーラ美術との関わりから、中国の阿弥陀信仰との比較検討を通じ、東アジア仏教美術に多大な影響を与える浄土のイメージが如何に形成されたのか、また観想念仏思想の展開など、その生成・発展過程を明確にした。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計44件)

宮治昭「半跏思惟像を読み解く-アジア的視点からみた菩薩信仰の一断面-」『日本仏教総合研究』査読有、16巻、2018年、1-28頁

Karashima, Seishi, "Ajita and Maitreya: More evidence of the early Mahāyāna scriptures' origins from the Mahāsāṃghikas and a clue as to the school-affiliation of the Kanaganahalli-stūpa", *Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University*, 査読無、vol.21, 2018, pp. 181-196.

Okamoto, Kensuke. "Paintings of Princess Muktālatā's Conversion Story: A Comparative Study of the Shakuson Eden and the Rtag brtan Phun tshogs gling Monastery's Mural", *Journal of World Buddhist Cultures*, 査読有、vol.1, 2018, pp.33-58.

Karashima, Seishi. "On Avalokitasvara and Avalokitesvara", *Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University*, 査読無、vol.20, 2017, pp.139-165.

辛嶋静志「大衆部と大乘」、『印度學佛教學研究』査読有、66-1号、2017年、411-405頁

辛嶋静志「変」、「变相」、「変文」の意味」、『印度學佛教學研究』査読有、65-2号、2017年、208-215頁

岡本健資「Dhammapada-Atthakathāにおける「三道宝階降下」について」『パーリ学仏教文化学』査読有、31号、2017年、51-72頁

肥田路美「敦煌の瑞像図に見られる弥勒像について」『美術史研究』査読有、第53冊、2016年、125-146頁

稲本泰生「雲岡石窟の仏教説話浮彫-本生・因縁図を中心に-」『國華』査読有、2016年、47-61頁

入澤崇「文明としての仏教-大谷探検隊の偉業から見てきたこと-」『京都女子大学宗教・文化研究所研究紀要』査読無、29号、2016年、75-121頁

入澤崇「失われた仏教を求めて」『駒澤大学佛教学部論集』査読無、46号、2015年、1-21頁

入澤崇「利他の芸術」『京都・宗教論叢』査読無、第9号、2015年、10-11頁

肥田路美「安岳臥仏院の刻経と涅槃大仏 唐代四川の仏教社会基層構造の一断面」、『氣賀澤保規編『明治大学東洋史資料叢刊12 隋唐佛教社會の基層構造の研究』査読無、2015年、85-123頁

稲本泰生「松本文三郎の仏教美術観-利他と慈悲のかたち」、『京都大学人文科学研究所東アジア人文情報学研究センター編『京大人文研漢籍セミナー5 清玩 文人のまなざし』、査読無2015年、127-214頁

宮治昭「仏像を読み解く-ガンダーラから中国へ-」『仏教史学研究』査読無、57-1号、2014年、75-105頁

[学会発表](計87件)

宮治昭「クチャのキジル石窟美術について-概観とパーミヤーン石窟美術との比較-」『西域桃源-大谷探検隊から見たクチャの仏教文化』、2019年

宮治昭「未来のほとけ-弥勒信仰とその美術-」『東方学院松江校講義』、2018年

入澤崇「シルクロード研究への日本の貢献」『日中友好40周年記念シルクロード国際シンポジウム』、2018年

辛嶋静志「中央アジア出土梵語仏典写本の新研究」『写本断片接続国際シンポジウム』、2018

年

稲本泰生「中国の釈迦信仰と仏伝図-北朝時代を中心に-」『龍谷ミュージアム春季特別展「お釈迦さんワールド ブッダになったひと」記念講演会』、2018年

福山泰子「インド石窟寺院にみる仏教文化の諸相」「第8回インド仏教文化とシルクロード『シルクロードの文化と建築』」、2018年

岡本健資「『舎衛城の神変』と『三道宝階降下』」『科学研究費補助金研究課題(B)「中央アジア仏教美術の研究-釈迦・弥勒・阿弥陀信仰の美術の生成を中心に-」2016年度第4回全体研究会-釈迦信仰と法華経』、2017年

肥田路美「敦煌石窟壁画の瑞像図-釈迦の像を中心に」『科学研究費補助金研究課題(B)「中央アジア仏教美術の研究-釈迦・弥勒・阿弥陀信仰の美術の生成を中心に-」2016年度第3回全体研究会-釈迦信仰の展開』、2016年

稲本泰生「奄然入宋と釈迦信仰の美術」『第15回ザ・グレートブッダ・シンポジウム「日宋交流期の東大寺」』、2016年

上枝いづみ「雲岡石窟第6窟にみられるガンダーラの影響」『2016年度龍谷大学史学大会』、2016年

〔図書〕(計38件)

肥田路美編著、藤岡穰、于春、大島幸代、下野玲子、田中健一、久野美樹、八木春生、倉本尚徳、濱田瑞美、大西磨希子、顔娟英、ミッシェル・ワン、長岡龍作、冉万里、稲本泰生、沙武田、加島勝、三田覚之著、中央公論美術出版、『アジア仏教美術論集 東アジア 隋・唐』、2019年、626頁

Munier-Gaillard, Christophe. (eds.), Miyaji, Akira, Iwai, Shumpei., Okada, Yoshihiro & Takashi Irisawa., Heller, Amy., Helmut, F & Heidi A. Neumann., Tropper, Kurt., Handlin, Lilian., Munier-Gaillard, Christophe., Chirapavati, Pattaratorn., Charleux, Isabelle., River Books., *Mural art : studies on paintings in Asia*, 2018, pp.251

宮治昭編著、肥田路美、辛嶋静志、稲本泰生、岡本健資、福山泰子、上枝いづみ他著、龍谷大学、『中央アジア仏教美術の研究-釈迦・弥勒・阿弥陀信仰の美術の生成を中心に- 科学研究費補助金基盤研究(B)研究課題/領域番号26284026 研究報告書』、2018年、691頁

森雅秀編著、エイミー・ヘラー(大羽恵美訳)、謝継勝、服部等作、田中公明、川崎一洋、正木晃、立川武蔵、クリスティアン・ルクザニッツ(マクロースキー芽衣子訳)、張雅静(山本恭子訳)、岡本健資、大羽恵美、小野田俊蔵、三宅伸一郎、津曲真一、石濱裕美子、高本康子著、中央公論美術出版、『アジア仏教美術論集 中央アジア チベット』、2018年、565頁

宮治昭編著、内記理、田辺理、小泉恵英、上枝いづみ、辛嶋静志、アンナ・フィリジェンチ(上枝いづみ訳)、ミヒヤエル・アルラム(宮本亮一訳)、ゼマルヤライ・タルズイー(岩井俊平訳)、岩井俊平、影山悦子、モニカ・ジン(檜山智美訳)、檜山智美、井上豪、森美智代、エリカ・フォルテ(福山泰子訳)、山部能宜、肥田路美、橘堂晃一、吉田豊著、中央公論美術出版、『アジア仏教美術論集 中央アジア I ガンダーラ~東西トルキスタン』、2017年、591頁

入澤崇・橘堂晃一編著、龍谷大学仏教文化研究所西域文化研究会、『西域研究叢書 6 大谷探検隊収集西域胡語文献論叢 仏教・マニ教・景教』、2017年、211頁

宮治昭著、春秋社、『仏像を読み解く-シルクロードの仏教美術』、2016年、286頁

林温編、林温編、三田覚之、中村暢子、佐藤有希子、勝木言一郎、古川攝一、古幡昇子、大河内智之、大西磨希子、川野憲一、林温、森實久美子、淺湫毅、清水健、渡邊雄二、瀧朝子、田林啓、石田淳、福山泰子、米沢玲、肥田路美、西木政統、鯨井清隆著、竹林舎、『仏教美術論集 3 図像学 -イメージの成立と伝承(浄土教・説話画)』2014年、488頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：肥田 路美

ローマ字氏名：HIDA Romi

所属研究機関名：早稲田大学

部局名：文学学術院

職名：教授
研究者番号（8桁）：00318718

研究分担者氏名：入澤 崇
ローマ字氏名：IRISAWA Takashi
所属研究機関名：龍谷大学
部局名：文学部

職名：教授
研究者番号（8桁）：10223356

研究分担者氏名：辛嶋 静志
ローマ字氏名：KARASHIMA Seishi
所属研究機関名：創価大学
部局名：国際仏教学高等研究所

職名：教授
研究者番号（8桁）：80221894

研究分担者氏名：稲本 泰生
ローマ字氏名：INAMOTO Yasuo
所属研究機関名：京都大学
部局名：人文科学研究所

職名：教授
研究者番号（8桁）：70252509

研究分担者氏名：岡本 健資
ローマ字氏名：OKAMOTO Kensuke
所属研究機関名：龍谷大学
部局名：政策学部

職名：准教授
研究者番号（8桁）：10425043

研究分担者氏名：福山 泰子
ローマ字氏名：FUKUYAMA Yasuko
所属研究機関名：龍谷大学
部局名：国際学部

職名：教授
研究者番号（8桁）：40513338

研究分担者氏名：上枝 いづみ
ローマ字氏名：UEEDA Izumi
所属研究機関名：金沢大学
部局名：人間社会研究域

職名：客員研究員
研究者番号（8桁）：40727880

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。